

2015年度 中央大学特定課題研究費 ー研究報告書ー

所属	戦略経営	身分	教授
氏名	露木 恵美子		
NAME	Tsuyuki Emiko		

1. 研究課題

（和文）コミュニティにおける慣習的社会制度の成立と変容に関する研究
～資源管理型漁業としての桜えび漁の事例～

（英文）Transition Process on Social System in a Fishermen's Community

2. 研究期間

2年間

3. 研究の概要（背景・目的・研究計画・内容および成果 和文 600字程度、英文 50word 程度）

本研究は、日本の伝統的な村落共同体（漁業者のコミュニティ）において内発的に形成された慣習的社会制度が、内外の環境の変化によってどのように変容していくのか、その契機とプロセスを明らかにすることを目的とした。具体的には、資源管理型漁業の成功例と言われる静岡県の桜えび漁におけるプール制（集団操業と共同配分システム）を題材に、社会構成主義におけるグループ・ダイナミクス理論に、90年代以降の経営学における「場」の理論を加え、さらに、漁業者と仲買との取引メカニズムについては新制度派経済学の理論を取り入れて分析することを企図した。

平成27年度は、第1に先行研究の整理および理論枠組みの構築、第2に、リサーチサイトにおける情報収集（特にプール制が成立した時期の社会文化的背景や当該地域の状況に関して）を行った。先行研究としては、グループ・ダイナミクス理論における規範形成とコミュニティの変化をとらえる活動理論、組織フィールドにおける「集合的合理性」、加えて、「場」の理論（清水博、中村雄二郎等）における拘束条件としての制度論を組み合わせ、慣習的な社会制度の成立と変容に関する理論的な解釈フレームを構築した。

平成28年度は、継続的なフィールドワークの結果と、先の先行研究に加えて新制度派理論であるダグラス・C・ノースの『制度言論』（2016）を組み合わせ、**「コミュニティにおける慣習的社会制度の成立と変容に関する考察～駿河湾桜えび漁における資源管理型漁業としてのプール制の事例～」**として論文化し、中央大学経済研究所の現代戦略問題研究部会による『研究叢書 現代経営戦略の軌跡』（高橋宏幸他編著、2016年12月30日、227-279頁）に掲載した。

（英文）

The object of this research presents the changing process on a traditional fishermen community; the fishermen's cooperative association of Yui in Shizuoka prefecture, and examines the structure of networks based on the social system by using the theoretical framework of group dynamics and "Ba" theory. The research method is qualitative research through case studies.